

【古典文法 助動詞「なり」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | |
|--|---|
| ① 男もする <small>日記</small> といふものを、女もしてみむとて、するなり。（土佐日記） | ② 守の叫びてもの言ふ声、はるかに遠く聞こゆれば、「その、ものは、のたまふなるは。 <small>今昔物語集</small> 」 |
| ③ そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。（徒然草） | ④ おのれは、とうとう、女 <small>なれば</small> 、いづちへもゆけ。我は打死せんと思ふなり。（平家物語） |
| ⑤ 八木のやすのりといふ人あり。この人、國に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。（土佐日記） | ⑥ 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御 <small>おぼえなり</small> 。（源氏物語） |
| ⑦ 人々数多声して来なり。国守の御子の太郎くんのおはするなりけり。（宇治拾遺物語） | ⑧ しだのなにがしとかやしる所 <small>なれば</small> 、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて、（徒然草） |
| ⑨ 呼びわづらひて、笛をいとをかしく吹き澄まして、過ぎぬなり。（更級日記） | ⑩ 奥山に猫またといふ物ありて、人を食らふなると人の言ひける。（徒然草） |
| ⑪ 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆虚言 <small>なり</small> 。（徒然草） | ⑫ いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。（和泉式部日記） |
| ⑬ いと思はずにほけづき、かたほにて、一ひと文もん字じをだに引かぬさま <small>なり</small> ければ、（無名草子） | ⑭ と言ひければ、傍らにて聞く人は、謀る <small>なり</small> と、をこに思ひて笑ひけるを、（宇治拾遺物語） |
| ⑮ 国より始めて、海賊報いせむと言ふなることを思ふ上に、海のまた恐ろしければ、（土佐日記） | |

【古典文法 助動詞「なり」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

- | | |
|---|---|
| ① 男もする <small>る</small> 日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。（土佐日記） | ② 守の叫びてもの言ふ声、はるかに遠く聞こゆれば、「その、ものは、のたまふなるは。（今昔物語集） |
| ③ そのことに候ふ。さがなき童べどものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。（徒然草） | ④ おのれは、とうとう、女 <small>な</small> れば、いづちへもゆけ。我は打死せんと思ふなり。（平家物語） |
| ⑤ 八木のやすのりといふ人あり。この人、國に必ずしも言ひ使ふ者にもあらざなり。（土佐日記） | ⑥ 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御 <small>お</small> ぼえなり。（源氏物語） |
| ⑦ 人々数多声して来なり。国守の御子の太郎くんのおはするなりけり。（宇治拾遺物語） | ⑧ しだのなにがしとかやしる所 <small>な</small> れば、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて、（徒然草） |
| ⑨ 呼びわづらひて、笛をいとをかしく吹き澄まして、過ぎぬなり。（更級日記） | ⑩ 奥山に猫またといふ物ありて、人を食らふなると人の言ひける。（徒然草） |
| ⑪ 世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆虚言 <small>うげんごん</small> なり。（徒然草） | ⑫ いとよきことにこそあなれ。その宮は、いとあてに、けけしうおはしますなるは。（和泉式部日記） |
| ⑬ いと思はずにほけづき、かたほにて、一ひと文もん字じをだに引かぬさまなりければ、（無名草子） | ⑭ と言ひければ、傍らにて聞く人は、謀る <small>ねら</small> りと、をこに思ひて笑ひけるを、（宇治拾遺物語） |
| ⑮ 国より始めて、海賊報いせむと言ふなることを思ふ上に、海のまた恐ろしければ、（土佐日記） | |

- | | | |
|------|------|------|
| ① 伝聞 | ② 推定 | ③ 断定 |
| ④ 断定 | ⑤ 伝聞 | ⑥ 断定 |
| ⑦ 推定 | ⑧ 断定 | ⑨ 推定 |
| ⑩ 伝聞 | ⑪ 断定 | ⑫ 推定 |
| ⑬ 断定 | ⑭ 推定 | ⑮ 伝聞 |